

令和8年度 大淀川学識者懇談会資料

おおよど

大淀川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

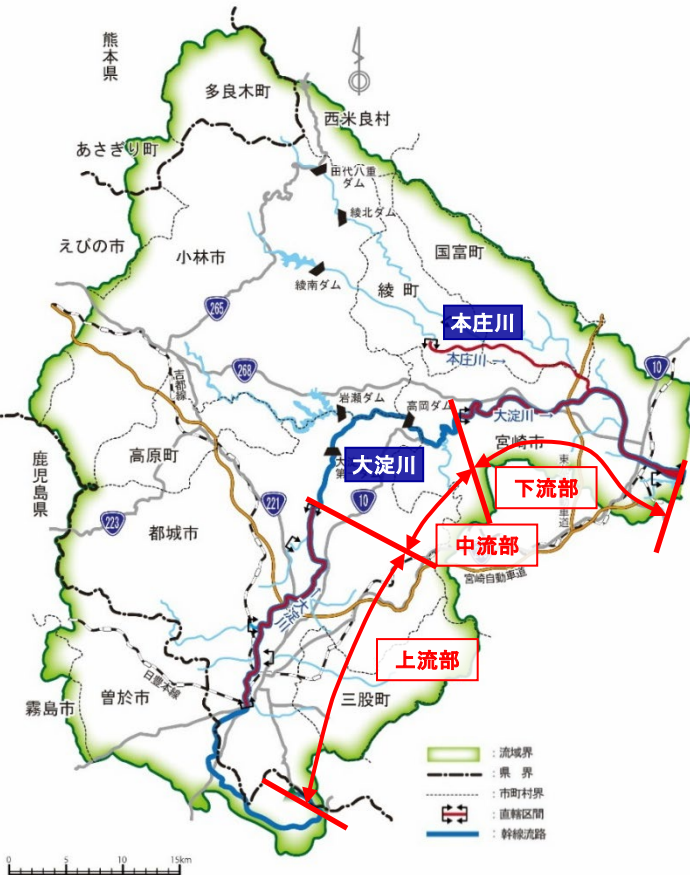


1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

●流域の概要

大淀川は、その源を鹿児島県曾於市中岳に発し、北流して都城盆地に出て、霧島山系等から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、岩瀬川等を合わせ東に転流して宮崎市高岡町に出て、最大の支川本庄川と合流し宮崎平野を貫流しながら日向灘に注いでいる流域面積2,230km²、幹川流路延長107kmに及ぶ九州屈指の河川である。

・水源	: 中岳（標高452m）
・流域面積	: 2,230km ²
・幹川流路延長	: 107km
・流域市町村	: 6市6町1村
・流域内人口	: 約60万人
・想定氾濫区域面積	: 約89km ²
・想定氾濫区域内人口	: 約15万人
・想定氾濫区域内資産額	: 約2.5兆円



各区間の特徴

本川上流部

- ・上流部は、流れの緩やかな砂礫底に固有種で絶滅危惧種のおオヨドシマドジョウが生息し、自然河岸にはカワセミやヤマセミが生息し、水際には絶滅危惧種のゴマクサ等の湿生植物が分布する。

本川中流部

- ・山間狭窄部の中流部は、瀬淵を交互に形成しながら流下し、瀬にはアユ、淵にはカワアナゴ等が生息する。河岸の河畔林にはコゲラ等、礫河原にはカジカガエルが生息する。支川岩瀬川には、絶滅危惧種のおオヨドカワゴロモが生息する。

本川下流部

- ・下流部は、瀬にはアユの産卵場が多数存在し、水際にはタコノアシ等の湿生植物が生息する。流れが緩やかでやや深い淀みを有する汽水域には、コアマモ群落が分布し、その周辺に絶滅危惧種のアカメが生息する。河口周辺の砂浜には、絶滅危惧種のアカミガメの産卵も見られる。

支川本庄川

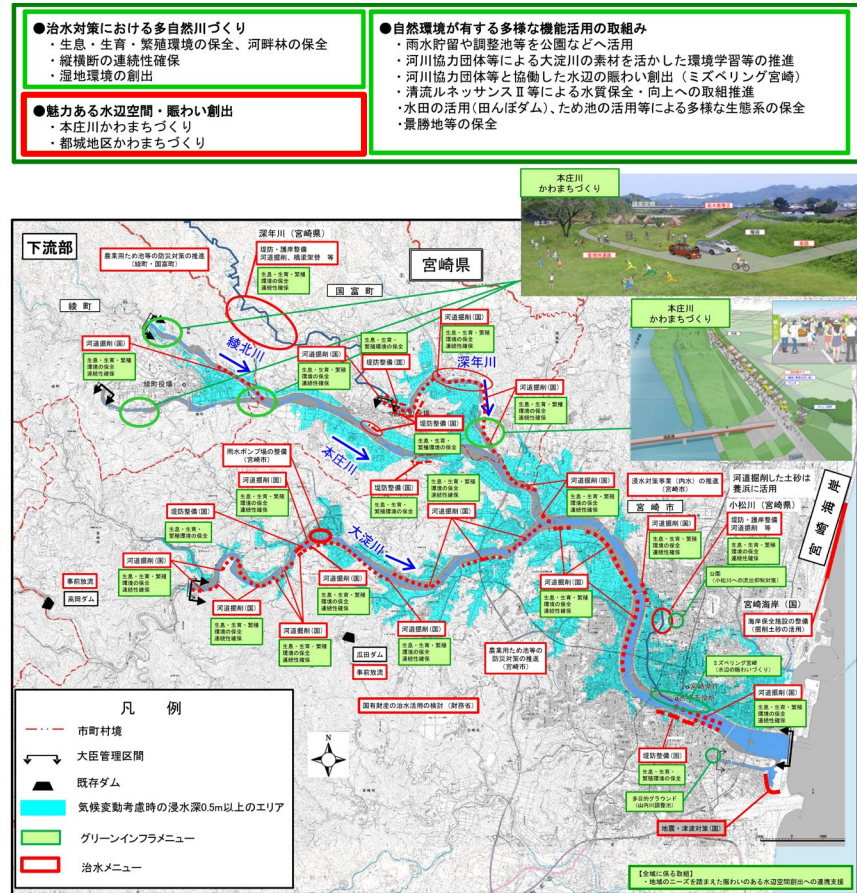
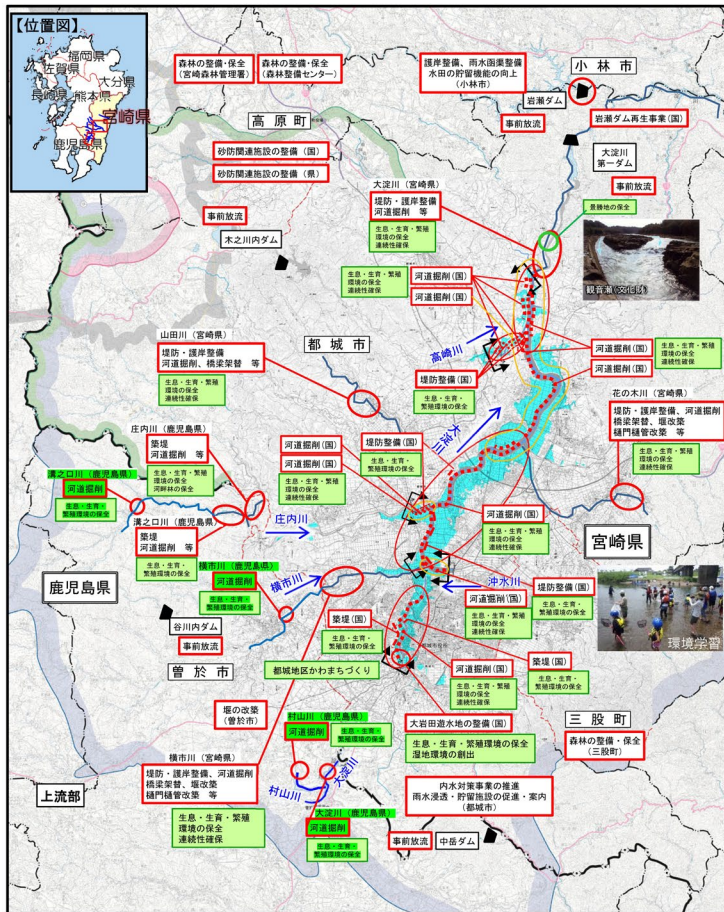
- ・最大支川の本庄川は、国内でも希少な照葉樹林帯を貫流し、瀬にはアユの産卵場が多数存在するほか、河川敷にはツクシイバラが生息する。また、広い低水敷に形成されたワンドには、ササバモや絶滅危惧種のみズキンバイなどの水生植物が分布する。



①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1)地域開発の状況

- ・気候変動による水災害リスクの増大に備え、流域全体の関係者が協働して水害軽減を図る流域治水を推進している。令和2年9月に「大淀川水系流域治水協議会」を設立し、令和3年3月に関係機関や自治体と連携して「**流域治水プロジェクト**」を策定するなど、流域治水の取組を進めている。
- ・今後短期的な取組として進める「本庄川かわまちづくり」「都城地区かわまちづくり」では**魅力ある水辺空間・賑わいを創出**するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進することとしている。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

流域治水プロジェクト（グリーンインフラの取り組み）（大淀川流域）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1)地域開発の状況

【道路】

- 宮崎市を中心に**宮崎自動車道**及び**東九州自動車道**が整備されている。東九州自動車道では、日南・志布志道路、油津・夏井道路の整備が進められている。さらに、九州唯一の中核国際港湾である志布志港と都城市を結ぶ地域高規格道路である**都城志布志道路**は令和7年3月に全線開通した。加えて、国道10号をはじめとする九州南東部の主要幹線道路が流域内を通過しており、今後は九州各地を結ぶ交通・物流の大動脈としての役割が期待されている。

【鉄道】

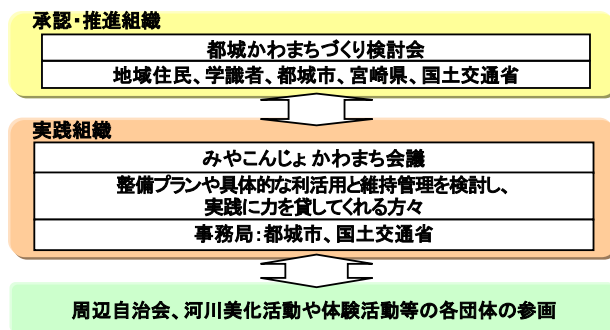
- 北九州市と鹿児島市を結ぶ**JR日豊本線**が通っており、都城駅からはJR吉都線、宮崎駅からはJR日南線が分岐している。日豊本線は地域間輸送を担うとともに、宮崎港や宮崎空港と連携し、宮崎県内の人流・物流を支える重要な交通基盤となっている。



1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2)地域の協力体制/都城地区

- ・平成26年度に地域住民や学識者、都城市、宮崎県、国交省等から構成した「都城かわまちづくり検討会」を、平成27年度に実践組織となる「みやこんじょかわまち会議」を設立し、整備内容や利活用、維持管理に関する検討を進め、平成28年3月にかわまちづくり支援制度に「都城かわまちづくり計画」が登録された。
- ・整備後は、**地域住民による日常的な散策や、高水敷を活用したグラウンドゴルフ等のスポーツ利用のほか、活動団体による外来生物駆除等のイベントや環境調査**が実施される等、多様な利活用が図られている。
- ・維持管理についても、**自治体と地域住民の協力体制の下で継続的に実施**されている。



都城かわまちづくり 組織体制図



都城かわまちづくり検討会
(R6. 12. 26)



みやこんじょかわまち会議
(R8. 3. 5)



高水敷でのグラウンドゴルフ利用



コウライオヤニラミ駆除プロジェクト釣り大会
(R7. 9. 27/大淀川サミット主催)



水辺で乾杯2025@ムーンリバーin都城
(R7. 10. 4/大淀川サミット主催)



整備箇所の維持管理の状況

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2)地域の協力体制/本庄川

- ・ 令和2年度に地域住民、商工会、自治会、漁業組合、学校関係者、国富町、綾町、国土交通省等で構成する「本庄川かわまちづくり協議会」、実践組織となる「本庄川かわまちづくり推進部会」を設立し、整備内容や利活用、維持管理に関する検討を進め、令和3年8月に「本庄川かわまちづくり計画」が登録された。
- ・ かわまち支援制度登録後も、整備内容や周辺の利活用、維持管理に関する協議を継続的に実施しており、**地元団体の企画により、側帯へのこいのぼりの設置やデイキャンプ**（綾町「WANZ Day Camp」）などの活動が行われている。
- ・ 整備箇所の一部は「コミュニティガーデン」として整備され、地域住民を対象としたコミュニティガーデン講座が定期的開催されているほか、**今後も地域の協力による継続的な管理・活用が見込まれる。**

本庄川かわまちづくり協議会
内容:事業のおおむねの方向性、推進部会にて具体化された計画の確認、チェック等
協議会の構成:自治体、国土交通省、地域住民 等

計画の確認・承認
↓
計画(整備・利活用・維持管理)の作成・提案
↑

本庄川かわまちづくり推進部会
内容:整備、利活用、維持管理の方策について実際に地域で具体化できるように検討を行い、協議会に提案する。
協議会の構成:地域住民、活動団体 等

国富町推進部会

綾町推進部会

本庄川かわまちづくり 組織体制図



本庄川かわまちづくり協議会
(R8. 2. 18)



本庄川かわまちづくり推進部会/国富町
(R7. 8. 28)



本庄川かわまちづくり推進部会/綾町
(R6. 9. 12)



国富町 こいのぼり設置
(R6. 5. 1~/国富町商工会青年部主催)



綾町 社会実験「WANZ Day Camp」
(R6. 5. 18/推進部会・綾町子ども育成連絡協議会主催)



国富町 コミュニティガーデン講座
(R7. 12. 13/宮崎県主催)

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3) 関連事業との整合/都城地区

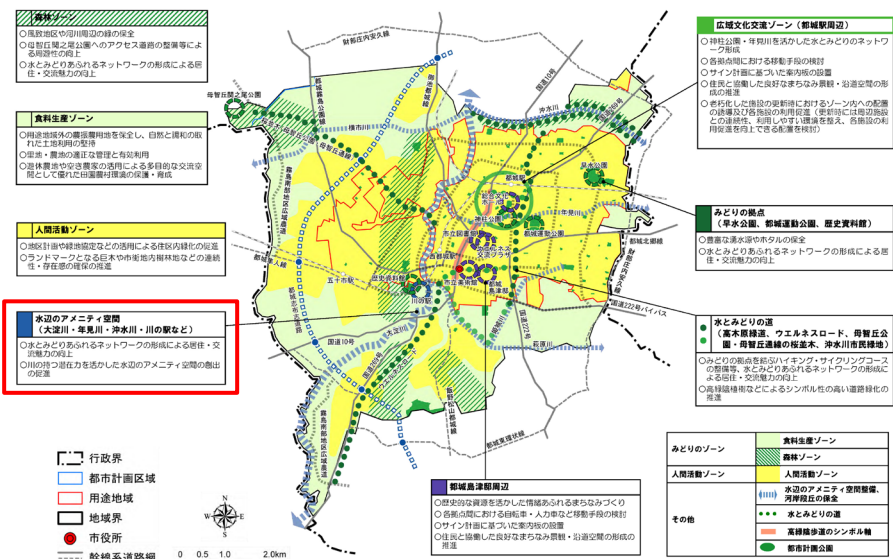
【都城市都市計画マスタープラン（平成21年策定 令和3年改訂）】

- ・まちづくり方針における「水辺のアメニティ空間（大淀川・年見川・沖水川・川の駅など）」の将来像として、「水とみどりあふれるネットワークの形成による居住・交流魅力の向上」「川の持つ潜在力を活かした水辺のアメニティ空間の創出の促進」を掲げる。

【都城市みどりと景観のまちづくり計画（平成25年9月策定）】

- ・河川などの水辺を活用した親水空間の整備を促すため、水とみどりが一体となった水辺の自然環境と気軽にふれあえる場の整備を図る。
- ・大淀川をはじめとする主要な河川の水辺空間の整備や、緑化の推進により、水とみどりのネットワークの形成を図る。
- ・水の景に対する取組として、**うるおいある水辺の空間形成、水辺の整備、親水化**等を進める。

まちづくり方針図【環】



都城市都市計画マスタープラン

		面的景観特性		
		山の景	農村の景	まちの景
線的景観特性		水の景		
		道の景		
点的景観特性		拠点の景	拠点の景	

水の景 水辺の空間を確保し、みどりのネットワークの形成を図ります。	まもる	自然環境の保護・保全	① 景観や生態系に配慮した河川環境の保全・整備	みどり・景観
	つくる	“みやこんじょ”らしいみどりと景観づくりを進めるためのルールづくり	① <u>うるおいある水辺の空間形成</u>	景観
		“みやこんじょ”らしいみどりと景観づくりを演出する公共施設の整備	② <u>水辺の整備、親水化</u>	みどり・景観
	そだてる	協働の仕組みづくり	③ 水とみどりのネットワーク形成	みどり・景観
			① 行政、市民・地域団体、事業者等の参加による河川の美化	景観

都城市みどりと景観のまちづくり計画

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3)関連事業との整合/本庄川

【第6次国富町総合計画（令和4年3月策定）】

- ・ **スポーツやレクリエーションが楽しめる河川敷の整備充実**に努める。
- ・ 国富スマートインターチェンジからアクセス性の高い本庄川・深年川を活用し、**桜並木や季節の花の空間の創出やイベント開催**などを行うことによる新たな賑わいづくりを推進する。
- ・ 綾宮崎自転車道や本庄川の資源を活用し、新たなサイクリングの拠点、水辺拠点の整備、イベント開催等により**町内外の交流人口増加を目指す**。

【第8次綾町総合長期計画（令和3年4月策定）】

- ・ 公園・緑地・水辺などにおいて、子どもの遊び場の確保とともに、憩いと交流の場としての保全・整備に努める。
- 「**照葉樹林と生活文化に親しむ清流の水辺**」をテーマに、**河川空間を利用した水辺の自然環境の活用・保全を「かわまちづくり事業」を活用し、国土交通省と一体となって推進**する。

主要施策

- 法華嶽公園を活用した自然体験活動の推進
- 校外学習の場としての法華嶽公園施設の利用促進
- 法華嶽公園のレクリエーション機能の整備充実
- 河川敷のスポーツ・レクリエーション機能の整備充実
- 地域住民主体による花があふれるふるさとづくりの促進
- 桜植栽による景観づくりの促進
- かわまちづくり事業の推進



第6次国富町総合計画

施策名	主要な取組
① 河川公園の活用	○「<u>照葉樹林と生活文化に親しむ清流の水辺</u>」をテーマに、<u>河川空間を利用した水辺の自然環境の活用・保全を「かわまちづくり事業」を活用し、国土交通省と一体となって推進</u>します。 ○綾北川・綾南川及び周辺の観光拠点等の集客力、自然資源を活用し、自然体験型観光（カヌー、キャンプ等）を促進することにより賑わいづくりを図ります。 ○現状において綾北川、綾南川沿いに資源が分散されているため、各拠点をつなぐことにより一層の活性化を図ります。 ○観光資源及び周辺施設と川のつながりを活かした自然体験を実施し、綾北川と綾南川との連携を強化した賑わいの創出を図ります。 ○三本松橋下流の右岸側を利用した木森井堰と三本松橋間の河畔林やワンドを含む水辺空間及びその周辺の緑地帯を含めて、一体的な環境整備を図り、町民の憩いの広場として活用します。 ○宮谷地区においては、ほたる橋歩道橋周辺の田園景観や自然景観との調和を図りつつ、優れた親水性を活かし、釣り・水遊びなどの親水活動が楽しめる河川として活用します。 ○公道～川久保間を魚類・水鳥の生息空間として、多くの瀬や淵のある水辺となるよう、また、河川敷は自然に配慮した多目的広場・町民憩いの水辺空間となるよう活用を図ります。 ○入野橋右岸の河川公園の活用を図ります。 ○両河川全体が公園的な位置づけができるよう協議するとともに、水辺空間を利用し、町民が自由に水辺に親しめるよう親水公園の活用を図ります。 ○松原公園周辺については、水遊びなどの親水活動や多目的広場、町民憩いの水辺空間として整備拡充を図ります。 ○千尋自然公園付近及び川中自然公園周辺のような緩衝地域においては、自然生態系の保全に配慮した適正な利用整備を推進します。

第8次綾町総合長期計画

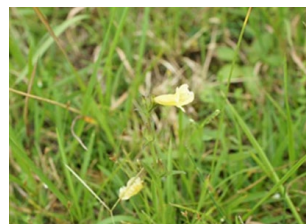
1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(4)河川環境をとりまく状況

- ・大淀川上流部はほとんどがシラスによって形成された谷底平野が広がる市街地や田園地帯を緩やかに流下しており、**瀬には絶滅危惧種のオオヨドシマドジョウ**、ヨシノボリ類、オイカワ、淵にはコイ等が生息・繁殖する。自然裸地（礫河原）にはイカルチドリが生息・繁殖している。河畔林及び自然河岸にはカワセミやヤマセミが見られ、草地にはギンイチモンジセセリ等の陸上昆虫類やカヤネズミ等が生息・繁殖し、**絶滅危惧種のゴマクサ**等も生育する。一方、平成29年には国内で初めて外来魚のコウライオヤニラミが都城市で確認され、その後急速に増加しており、在来魚を捕食するなど生態系への影響が懸念されている。
- ・大淀川中流部は、自然林と人工林が混在する陰しい地形の中を瀬と淵を交互に形成しながら流下する。河岸は広葉樹林や竹林等の河畔林が形成されている。**瀬にはアユ**、**淵にはカワアナゴ**等が生息・繁殖する。礫河原にはカジカガエル等が生息・繁殖している。
- ・大淀川下流部の山付き区間には、絶滅危惧種のガンゼキラン等が生育するスダジイ等の照葉樹林が分布する。その下流では瀬や淵が見られ、瀬はアユの産卵場、淵やワンド・たまりはカワアナゴやコイ等の生息・繁殖場となっている。**中～下流区間の水際にはタコノアシ**等の湿性植物が生育し、礫河原にはイカルチドリ、高水敷やヨシ原にはシルビアシジミやカヤネズミが生息・繁殖している。**汽水域にはコアマモ群落が分布し、絶滅危惧種のアカメ**が生息・繁殖する。河口周辺ではアカウミガメの産卵やコアジサシの集団繁殖が見られる。
- ・本庄川は、国内でも貴重な照葉樹林帯の中を流れており、**九州屈指の清流**となっている。平野部に入ると瀬や淵が交互に見られ、瀬にはアユの産卵場が多数存在する。広い低水敷に形成された**ワンド・たまり等には、絶滅危惧種のみズキンバイ**等の水生植物が生育し、**絶滅危惧種のみナミメダカ**等の魚類にとって良好な生息・繁殖環境を創出している。



オオヨドシマドジョウ



ゴマクサ



アユ



カワアナゴ



タコノアシ



アカメ



ミズキンバイ



ミナミメダカ

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(5)河川の利用状況

- ・大淀川の年間利用者総数は約156.7万人(令和6年度河川水辺の国勢調査)であり、主にスポーツ、散策等で利用されている。
- ・上流部には長田峡等の景勝地が多く、周辺の宿泊・レジャー施設とあわせて自然探勝や行楽の場として利用されている。また、カヌー大会や大淀川こどもサミット等のイベントも開催されている。
- ・宮崎平野までの狭窄部となる中流部にはダム湖を活用した釣り場が多く、多くの釣り人で賑わっている。
- ・宮崎市街部が位置する下流部は、天満橋下の親水空間やカヌー利用環境、大淀川学習館、大淀川水辺の楽校等が整備されている。高水敷ではスポーツや花火大会、環境学習イベント等が開催され、多くの人に利用されている。また、河口付近は釣りの良場として賑わっている。
- ・大淀川流域では11団体の住民団体と、上流・下流で各1団体の河川協力団体が活発に活動しており、相互に連携しながら河川一斉清掃や水辺安全講習会、環境教育支援等を継続的に実施している。



曾於市カヌー大会
(曾於市)



大淀川こどもサミット
(都城市)



大淀川学習館
(宮崎市)



サッカー
(宮崎市)



みやざき納涼花火大会
(宮崎市)



釣り
(宮崎市)



特定外来生物駆除活動
(都城市)



自然環境保全活動
(宮崎市)

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

(1)事業の投資効果

項目	前回評価時 (令和3年度)	今回評価時 (令和8年度)	変更理由
総事業費	約25.0億円 【水辺整備】 大淀川上下流地区 : 約 1.2億円 都城地区 : 約 6.2億円 本庄川 : 約 6.6億円 【水環境整備】 水流川 : 約11.0億円	約21.8億円 【水辺整備】 大淀川上下流地区 : 約 1.2億円 都城地区 : 約 4.6億円 本庄川 : 約 5.0億円 【水環境整備】 水流川 : 約11.0億円	・水辺整備事業の整備内容変更による事業費減及び事業期間短縮 ・集計世帯数の更新によるB(便益)の変更 ・工事諸費を計上しないことによるC(費用)の変更 ・現在価値化による更新
事業完了年	令和13年度	令和12年度	
B/C	10.4	13.9	
B(便益)	429.1億円	515.0億円	
C(費用)	41.3億円	37.2億円	

※令和7年度より、工事諸費を除いた額をC(費用)として算出。

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

1. 事業の必要性

②事業の投資効果

<費用対効果等>

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)※1	B/C	EIRR※3
全事業	21.8億円	—	515.0億円	37.2億円	13.9 ※2: 社会的割引率 1%の場合: 20.1 2%の場合: 17.4	45.0%
完了事業	12.2億円	—	367.3億円	25.2億円	14.6	—
水辺整備	1.2億円	階段護岸等	302.7億円	2.7億円	113.1	—
大淀川上下流地区						
水環境	11.0億円	取水施設、送水管等	64.7億円	22.5億円	2.9	—
水流川						
継続事業	9.6億円	—	147.7億円	12.0億円	12.3	—
水辺整備	9.6億円	—	147.7億円	12.0億円	12.3	—
都城地区	4.6億円	高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、護岸等	67.5億円	6.0億円	11.3	—
本庄川	5.0億円	高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、緩傾斜化等	80.2億円	6.0億円	13.4	—
残事業	0.1億円	モニタリング調査	0.37億円	0.07億円	5.1 ※2: 社会的割引率 1%の場合: 10.3 2%の場合: 8.0	17.6%
本庄川						

※1: 令和7年度より、工事諸費を除いた額を「費用:C」として算出
※2: B/Cの算出にあたり、社会的割引率は全事業において4%を適用しているが、最新の社会経済情勢等を踏まえ、比較のために参考とすべき値を2%、及び、1%と設定し、令和5年度以降に適用した場合の算出結果を示した。
※3: EIRR(経済的内部収益率)は、便益と費用の現在価値が等しくなる割引率であり、EIRRが社会的割引率を上回る場合、当該事業は経済性の観点から妥当と評価される。

	アンケート 実施年度	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計 世帯数	支払い意思額 (円/月・世帯)
大淀川上下流地区	平成24年度	1,500	227	半径10km圏内	184,311(～R12) 116,343(R13～)	375
水流川	平成28年度	1,500	356	半径2km圏内	39,178	416
都城地区	平成26年度	2,000	218	半径10km圏内	94,564	277
本庄川	令和3年度	2,000	311	半径10km圏内	78,107(～R41) 146,075(R42～)	402

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

<費用対効果等（感度分析）>

項目		基本ケース	感度分析					
			事業費		工期		資産	
			+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
全事業	便益:B (億円)	515.0	515.0	515.0	515.0	515.0	544.3	485.8
	費用:C (億円)	37.2	37.2	37.2	37.2	37.2	37.2	37.2
	B/C	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	14.6	13.1
残事業	便益:B (億円)	0.37	0.37	0.37	0.37	0.37	0.41	0.34
	費用:C (億円)	0.07	0.08	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
	B/C	5.1	4.7	5.7	5.1	5.1	5.6	4.6

※事業費、工期、資産がそれぞれ±10%に変動した場合のB/Cを算出した。

※すべてのケースでB/Cが1.0以上となった。

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

①CVM手法による便益の算出：約515.0億円
（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

②地域資源を活かした教育効果：大淀川及び本庄川の豊かな自然環境を活かした体験イベントの実施、
地域が主体となって大淀川と周辺地域を一体的に活用することによる
地域への愛着の醸成

P4, 5, 16, 18

③地域のにぎわいの創出：水辺イベントの開催やカヌー・カヤック等水辺のアクティビティの場とし
ての活用
地域の既存イベントや新たな水辺イベントの開催の場の提供による地域活
動の増進

P4, 5, 16, 18

④治水安全性の向上：河川巡視や管理の円滑化、河川利用者の安全性向上

P15, 16, 17, 18

⑤良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動
河川を活用した環境学習

P4, 5, 9, 16, 17, 18

⑥費用対効果分析（算定に用いた効果①）

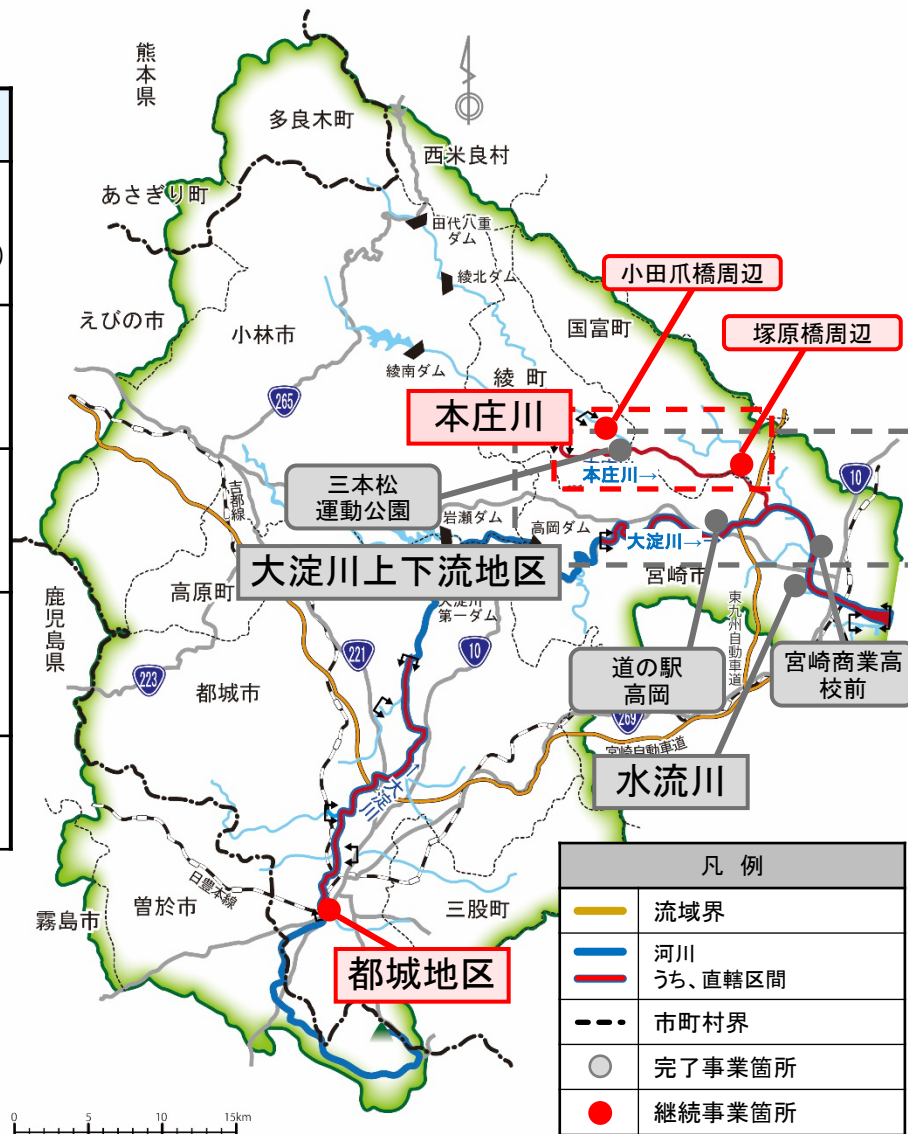
全体事業（B／C）：	13.9
残事業（B／C）：	5.1

※各ページの該当箇所に対応

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(1)事業の採択年・工事着手年

区 分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	おおよどかわじょうかりゅう 大淀川上下流地区	平成19年度～ 平成21年度	完了箇所 (平成27年度報告済み)
	みやこのじょう 都城地区	平成28年度～ 令和8年度	継続箇所
	ほんじょうがわ 本庄川	令和4年度～ 令和12年度	継続箇所
水環境整備	つるがわ 水流川	平成8年度～ 平成27年度	完了箇所 (令和2年度報告済み)
大淀川総合水系 環境整備事業		平成8年度～ 令和12年度	



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(2)事業の進捗状況(継続箇所:都城地区(水辺整備))

1)事業の必要性

- 大淀川河畔の「川の駅」周辺では、川の駅公園に多くの利用者が訪れている一方で、河川敷には草本が繁茂し、水際との高低差もあることから、安全に水辺へ近づきにくい状況であった。また、カヌー利用や親水利用を行うための環境が十分ではなく、大淀川と川の駅が一体となった水辺拠点の創出が求められている。

2)事業の概要・目的

- 大淀川と「川の駅」の周辺の魅力を活かした地域活性化、様々な世代が集う水辺拠点を創造し地域交流の促進を図るとともに、河川利用者の安全性向上、河川巡視・河川管理の円滑化を図るため、高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、護岸を整備する。

【概要】(当初計画)

位置	大淀川 77k800～78k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、護岸
事業費	約6.2億円
整備完了年	令和3年度
事業期間	平成28年度～令和8年度

【概要】(今回評価時)

位置	大淀川 77k800～78k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、護岸
事業費	約4.6億円
整備完了年	令和3年度
事業期間	平成28年度～令和8年度

【整備イメージ】



【工程表】(当初計画)

工種	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
高水敷整正											
護岸工											
階段工・付帯工											
管理用通路											
測量設計等											
モニタリング等											

【工程表】(今回評価時)

工種	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
高水敷整正											
護岸工											
階段工・付帯工											
管理用通路											
測量設計等											
モニタリング等											

③事業の進捗状況

3)事業の現状

- 平成28年度に事業着手し、令和3年度に整備が完了した。現在は整備効果等を確認するため、令和8年度までモニタリング調査を実施している。
- 護岸、高水敷及び管理用通路の整備により、安全な水辺へのアクセスが確保され、地域活性化に資するとともに、河川巡視及び河川管理の円滑化が図られている。
- 整備箇所は、散策や水遊びなどの日常利用の場として活用されているほか、「NP0法人都城大淀川サミット」が主催するコウライオヤニラミ釣り大会をはじめとした、外来生物に関する周知・啓発活動の場、イベント開催の場としても利用されている。
- 令和7年度には、地域及び都城市との協議を踏まえ、使用上のルールの明確化及び周知を目的とした仮設看板を設置した。
- 整備完了後は都城市が占有しており、地域住民の協力のもと、都城市による定期的な草刈りや清掃などの維持管理が実施されている。



コウライオヤニラミ釣り大会 (R7. 9. 27)



大淀川サミットRe:rive marche (R5. 3. 25)

都島虎岳淵広場



平坦でなく雑草が生い茂っており、利用が困難な状況



スポーツや水際の散策等に利用
されている

都島歌舞伎広場



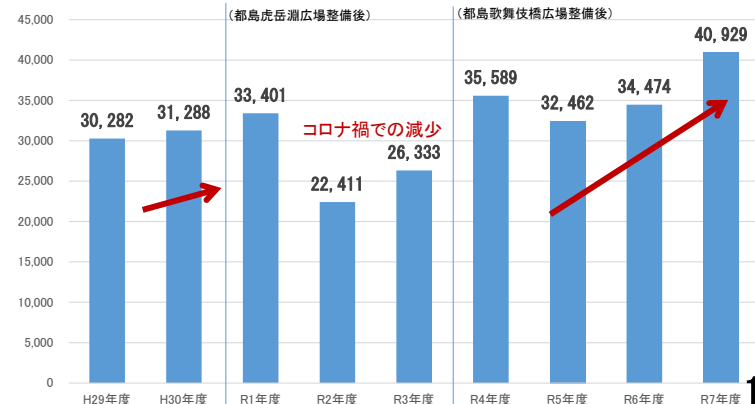
水際に草が生い茂り水辺に近づきにくい状況



川遊びや水際の散策等に利用されている

整備による効果（周辺施設の利用者数の増加）

川の駅公園 利用者数の推移(人)



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(2)事業の進捗状況(継続箇所:本庄川(水辺整備))

1)事業の必要性

- ・本庄川周辺では、ユネスコエコパーク登録や国富スマートICの開通による交通アクセス向上など、観光振興の機運が高まっている一方で、本庄川の豊かな自然環境や景観資源が十分に活用されていない状況であった。また、水辺へのアクセスが困難な箇所があり、本庄川の自然環境を活かした水辺拠点や、地域住民と来訪者が交流できる河川空間の創出が求められている。

2)事業の概要・目的

- ・国富町と綾町が連携し、地域資源を活かした魅力ある水辺空間を創出し、観光振興を図るとともに、河川利用者の安全性・利便性向上、堤防強化及び流下障害軽減を図るため、高水敷整正、堤防腹付け、管理用通路、坂路・階段等を整備する。

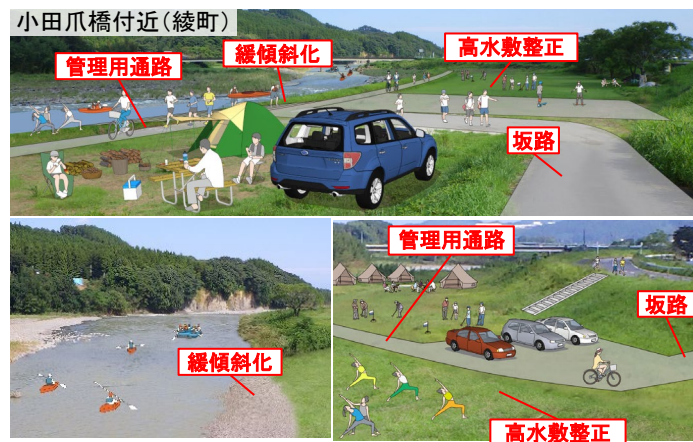
【概要】(当初計画)

位置	綾北川13k400～15k400(小田爪橋付近) 深年川0k200～1k400(塚原橋付近) 本庄川6k800～7k000(本庄橋付近) 本庄川10k400～10k600(森永橋付近)
事業区分	水辺整備
主な整備内容	坂路・階段、親水護岸、高水敷整正、緩傾斜化、管理用通路 等
事業費	約6.6億円
整備完了年	令和8年度
事業期間	令和4年度～令和13年度

【概要】(今回評価時)

位置	綾北川13k400～15k400(小田爪橋付近) 深年川0k200～1k400(塚原橋付近)
事業区分	水辺整備
主な整備内容	坂路・階段、高水敷整正、緩傾斜化、管理用通路 等
事業費	約5.0億円
整備完了年	令和7年度
事業期間	令和4年度～令和12年度

【整備イメージ】



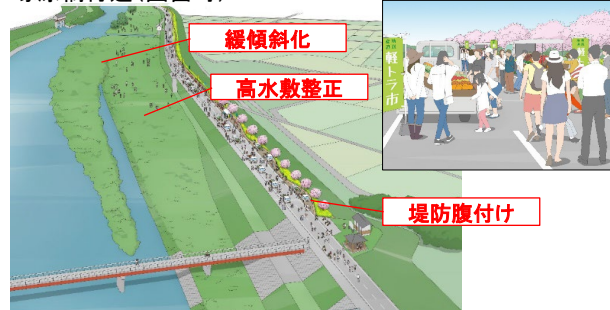
【工程表】(当初計画)

工 種	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
坂路										
階段										
親水護岸										
高水敷整正										
緩傾斜化										
管理用通路										
堤防腹付け										
モニタリング等										

【工程表】(今回評価時)

工 種	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
坂路									
階段									
高水敷整正									
緩傾斜化									
管理用通路									
堤防腹付け									
モニタリング等									

塚原橋付近(国富町)



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

3) 事業の現状

- 本庄川では、令和4年度に事業着手し、綾町整備箇所は令和6年に、国富町整備箇所は令和7年度に整備が完了した。令和8年度からは整備効果等を確認するため、令和12年度までモニタリング調査を実施する予定である。
- 綾町では、高水敷整正や管理用通路等の整備により、**散策や水遊びなどの日常利用の場**として活用されているほか、**地域住民が主体となった自然体験イベント**が開催されるなど、水辺空間の利活用が図られている。
- 国富町では、高水敷整正や坂路・階段等の整備により、地域住民による**散策やスケートボード等**の利用が行われている。また、自治体による堤防沿いの植栽が予定されているほか、**コミュニティガーデン講座の開催**や花壇・桜の植樹に係る**クラウドファンディングの実施**、**こいのぼりの設置**など、地域住民と連携した取組が進められている。
- 整備完了後は綾町、国富町が占用し、現在も各自治体による定期的な草刈りや清掃などの維持管理が行われていることから、地域の協力体制の下、整備完了後も継続した維持管理が見込まれる。



WANZ Day Camp (花の観察会、
鮎つかみ取り等) / 綾町



コミュニティ花壇講座/国富町



クラウドファンディング/国富町



2. 事業の進捗の見込み

(1)事業の実施状況

- ◆事業名：大淀川総合水系環境整備事業
- ◆計画（整備内容）：
 - ＜水辺整備（大淀川上下流地区、都城地区、本庄川）＞
 - ・階段護岸、高水敷整正、管理用通路、坂路・階段、緩傾斜化、モニタリング調査等
 - ＜水環境（水流川）＞
 - ・取水施設、送水管、モニタリング調査等
- ◆総事業費：約21.8億円
- ◆事業期間：平成8年度から令和12年度
- ◆事業進捗率：約99.5%（残事業：モニタリング調査）
- ◆残事業費：約0.10億円

(2)今後の事業展開

- ・大淀川上下流地区、水流川は事業が完了。
- ・都城地区は、平成28年度に事業に着手し、令和3年度に整備が完了した。令和4年度以降はモニタリング調査を実施し、**令和8年度に完了予定**である。
- ・本庄川は、令和4年度から事業に着手し、令和7年度に整備が完了した。令和8年度以降はモニタリング調査を実施し、**令和12年度に完了予定**である。

(3)今後の事業の進捗の見込み

- ・都城地区は、「都城かわまちづくり検討会」等により、整備箇所の利用方法や維持管理について継続的に議論しており、地域の協力体制も確立されていることから、**順調な進捗が見込まれる**。
- ・本庄川は、「本庄川かわまちづくり協議会」等により、整備箇所の利用方法や維持管理の役割分担等について今後も議論していく予定であり、**順調な進捗が見込まれる**。

3. 主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減や代替案立案等の改善

(1) 主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画の検討

- ・大淀川総合水系環境整備事業計画について、前回評価時から変更しない。

(2) 代替案の可能性の検討

- ・大淀川の水辺整備は、地域で協議を重ねた上で、河川管理面及び河川利用面を考慮して決定している。今後も利用状況の変化や地域ニーズを踏まえ、必要に応じて代替案の可能性を検討しつつ、より効果的な整備内容となるよう取り組んでいく。

(3) コスト縮減の方策

- ・近年の技術開発の進展に伴う、**新たなモニタリング手法の導入**を検討しながら、コスト縮減及び事業効果の効率的な発現に努める。
- ・引き続き、地域住民や地方自治体協力のもと、整備箇所周辺の除草・美化活動に取り組む。

対応方針(原案)

①事業の必要性に関する視点

- ・都城地区においては、整備完了後、地域住民による交流の場や大淀川環境を活かしたイベントの場として有効活用されている。地域住民が主体となり都城市と密に連携しながら利用と管理の両面を実践しているところである。
- ・本庄川においては、整備完了後、地域住民による散策や水遊び等の日常利用の場として有効活用されている。地域資源を活かした魅力ある水辺空間を目指し、地域住民および国富町・綾町と密に連携しながら利用と管理を促進していくところである。
- ・費用便益比(B/C)は**事業全体で13.9、残事業で5.1**である。

②事業の進捗の見込みの視点

- ・都城地区においては、令和3年度に整備が完了した。令和4年度からモニタリングを実施しており、**令和8年度に完了予定**である。
- ・本庄川においては、令和7年度に整備が完了した。令和8年度からモニタリングを実施しており、**令和12年度に完了予定**である。
- ・利活用や維持管理等において**地域の協力体制が確立されている**ことから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

③主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減や代替案立案等の改善の視点

- ・大淀川総合水系環境整備事業計画について前回評価時から変更しない。
- ・**モニタリング手法においてコスト縮減**を図るとともに、今後もコスト縮減の方策として新技術を活用するなど、事業の効率的な推進に努める。

④対応(原案)

- ・当該事業は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点、主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減、代替案立案等の改善の視点から「**継続**」が妥当であると考えている。